

I. 神奈川県内 c. 海成・河成堆積物

(6) 化石カキ礁を含む相模層群上倉田層 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 9

標本名 化石カキ礁を含む相模層群上倉田層 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 3.45 m, 高さ 1.65 m

重量 展示中のため不明

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で常設展示 (神奈川展示室)

採集地 横浜市戸塚区上品濃

緯度・経度 N35°26'06", E139°33'11"

標高 50 m

露頭の種別と現状 露頭および造成に伴う人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 不明

走向・傾斜 不明

堆積物の種別 砂泥層 (海成層)

年代 中期更新世 (およそ 40 万年前、MIS11)、上倉田層 (港南層)

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 松島義章、平田大二

採集日 1991 年 10 月 26 ~ 28 日

その他 東戸塚での造成時に採集された化石カキ礁の断面剥ぎ取りであり、一連のカキ礁としてブロックサンプリングが併せて実施された。

関連文献等

鎮西清高 (1982) カキの古生態学 (1). 化石. 31(6): 27-34.

町田 洋 (2008) 大磯丘陵から下総台地までの第四系. 日本地質学会編: 日本地方地質誌 3 関東地方. 朝倉書店, 299-315.

解説 当館の神奈川展示室に常設している化石カキ礁の断面剥ぎ取り標本である。展示ラベルでは、産出層を上倉田層と表記した。上倉田層を港南層と扱うことも多く (たとえば、町田, 2008)、ここでは港南層を併記した。

剥ぎ取り標本の下半部に、多数のマガキ *Crassostrea gigas* を密集する部分が、いわゆるカキ礁である。カキ礁は、干潟でマガキが形成する密集構造のひとつである。マガキが、集合着生をくりかえし株状のコロニー形成し、その株を基盤として次の世代以降のカキが次々と着生するため、大きな礁をつくる (鎮西, 1982)。剥ぎ取り標本上でも、カキが垂直あるいは斜め上方に伸びるように生長している。

マガキのカキ礁そのものが見つかることから、その堆積環境は干潟泥底と推測できる。上倉田層 (港南層) は、横浜地域の港南段丘とその構成層にあたり、海進堆積物である (町田, 2008)。干潟群集を代表するマガキ、しかもカキ礁の産出は、海進期の谷埋め時の干潟つまり湾奥での堆積を支持するものとなる。

記録者 田口公則

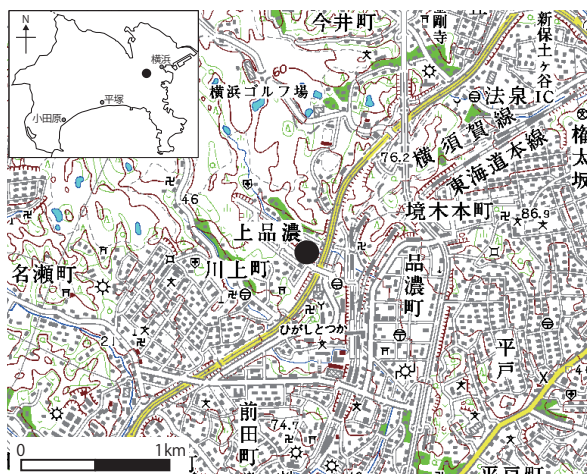


図 Ic-6-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 Ic-6-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭の様子 (上: 剥ぎ取り作業前, 中: 作業中, 下: 作業終了後 (水糸の枠内はこの後ブロックとして切り取り採集した範囲 (p.19 図 8 参照))。



図 1c-6-3. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 9) の写真 (上: 神奈川展示室) (中村 淳氏撮影) と実際の展示の様子 (右).



図 1c-6-4. 展示整形前の剥ぎ取り標本の写真.